

第16回 東北支部例会報告

開催日時 2024（令和6）年3月9日〔土〕14:00~17:40

会 場 宮城教育大学 430 教室（および Google Meet での双方向配信）

参加者数 22 名〔オンライン 3 名含む〕

内容

第1部 研究発表

1. 研究発表〔模擬授業含む〕

「教師によるピアノ生演奏鑑賞の実践～音楽史の学習と関連付けて～」

発表者：吉田圭祐会員（南会津町立南会津中学校）

クラシック音楽の作曲家と活躍した時代について解説プリントをもとに解説を行い、その後ピアノの生演奏を披露する実践である。生徒へのアンケート結果や実践の振り返りから、成果としては①生演奏を通じて音楽史の各時代への理解を深めることができたこと、②生演奏に触れる良い機会となったこと、③音楽を愛好する心情を育成する一助となったことが挙げられた。

課題としては①音楽史の解説の仕方をもっと分かりやすくすること、②音楽史に関する知識・理解の定着度に関する検証、③クラシック音楽が好きではない生徒のための配慮や工夫が必要であること、④教師の演奏の質を高める努力の必要があること等が挙げられた。

その後、「亜麻色の髪の乙女」（C. ドビュッシー）の鑑賞の模擬授業が行われ、生演奏に酔いしれた。

2. 研究発表〔動画視聴含む〕

「AI 機能付きの音楽アプリを活用した ICT による創作授業の可能性と課題」

発表者：石原慎司会員（秋田大学）・清水功一（秋田大学教育文化学部附属中学校）

創作授業における教師と生徒の困難さを低下させるため、AI を活用した ICT による授業方法を提案された。なお、これは既習事項で培った生徒の感性をより深化させる継続研究の一環で行われたものである。

さて、生徒にとっての創作の困難さは、楽典上の知識の不足、創作過程での思考や判断力の不足ないしは経験値の少なさ等であり、教師にとっての困難さは、能力差のある生徒集団に対する効果的な授業方法であろう。しかし、AI と ICT の活用の結果、これらの困難さの多くが取り除かれ、生徒の主体的な取り組みが顕著に見られ、全員が作品を完成させて成功体験を得たようである。ただし、作品に不十分さを感じる生徒もおり、人間の表現には至らない面を補う教育内容が今後の課題といえる。

第2部 話題提供

「表現領域における学習材の工夫～宮城教育大学附属中学校での実践から～」

発表者：板橋薫(宮城教育大学附属中学校)

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大とその予防に伴い、教育活動にさまざまな課題が生じた。音楽科教育においては、特に表現領域の学習活動を行う上で工夫をする必要が生じた。発表者の所属する宮城教育大学附属中学校において、令和2年度以降の音楽科の授業における表現領域の学習活動を、どのような学習材を用いることによって継続させてきたかについて発表された。

第3部 校種別情報交換

「小A」「小B」「中高」の3グループに分かれ、実践状況等を報告し、話し合った。全体会での報告では、主に以下の話題が報告された。

- ・学生が教壇に立つことへの不安がある。自分が何をすればうまくいくかを考え、「美を求めていくもの」として、自信を持って教壇に立ってほしい。
- ・五線譜を使わずに指導できるのではないだろうか。音楽の捉え方、そして共有のあり方を考えていきたい。
- ・ICTの音楽アプリには様々ある。これらを使うことについて、公立学校は使用を遠慮がちなところがどちらかといえばあり、そこが附属学校と異なる。ICTの操作に「飲み込まれず」、従来のアナログとのハイブリットな使い方を検証していきたい。

